

しらかべ



2015年11月5日 人権・同和教育部発行

秋冷の候、保護者の皆様方におかれましてはご健勝のことと存じます。日頃は本校の人権・同和教育にご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、旧校舎解体工事が終了し、もうしばらくすると新校舎建築に向けた工事が始まるようです。生徒は、9月初めに文化祭があり、あわただしく始まった2学期でしたが、落ち着いた学校生活を送っています。10月半ばには、2学期中間考査が終わり、3年生にとっては、入試等が本格化。1・2年生は、コース選択や選択科目決定もあり、自分の進路についてじっくり考える時期ではないでしょうか。

➤ 第30回香川県人権・同和教育研究大会

10月20日(火)に高松市のアルファあなぶきホールをメイン会場に開催されました。昨年度は全国人権・同和教育研究大会香川大会開催のため、2年ぶりの大会でした。本校からは、職員3名、保護者2名が参加し、研修しました。



(1) 坂出高校報告

第4分科会「自主活動」で「生徒が主体的に取り組む人権・同和教育 LHR 活動の展開」と題して、以下の4点について重点的に取り組んでいく報告を行いました。

- ① 現地訪問学習会や人権・同和教育 LHR を生徒が主体的に取り組めるように工夫する。
1年：大島青松園訪問学習会、2年：人権啓発学習会、3年：結婚差別聞き取り学習会に各学年のHR運営委員4名が参加し、学習した内容を2学期のLHRでクラスに伝えています。
- ② 各学年で学んだ内容を次の学年に伝える縦の連携を図る取り組みを行う。
- ③ 学校の取り組みを保護者に伝える人権通信「しらかべ」を通して双方向の啓発に努める。
- ④ 各教科での人権を尊重する態度を育む授業づくりを行う。

今年度から始めた取り組みもあり、年度の途中の報告でしたが、会場からはこの取り組みを応援していただけるご意見をいただきました。この後、2016年7月に高知県で開催される第63回四国地区人権教育研究大会において、報告を行う予定です。学校では、人権・同和教育 LHR などを通してさまざまな活動を行っていきます。ご家庭でも人権・同和教育 LHR を実施した後、内容や感想などを話し合っていたいただけたら幸いです。

(2) 講演 「学びをつなぐ～人権教育（保育）の充実と発展に向けて～」

全体会後に、奈良県人権推進協議会会長の大寺和男さんが講演を行いました。「思い込み」「偏

見と差別意識の関係」などを分かりやすく話されました。以下に、紹介します。

- 「人権問題（部落問題）って難しい問題だね」という言葉をよく耳にします。この難しさの中身として、「人権問題そのものの理解の難しさ」なのか「人権問題の解決が難しい」のか、多くの場合はっきりしていません。しかし、人権問題（部落問題）は、“難しい”という「思い込み（先入観）」が前提としてあるのであれば、私たちの思考は、その時点で停止してしまい、この「思考停止」はやがて人権問題に対する「無関心」を生み出しています。
- “差別意識は”もともとある（今ある）「ちがひ」から出発し、そこに歴史的・社会的・政治的・文化的な要因による「見下し（蔑み）意識」が付加されて形成されます。そして、そのマイナスの価値観を付加された「ちがひ」が社会通念として固定化されたり、政治的に制度化されることによって“差別”は生み出されると考えます。残念なことです。その人の生活背景や生育歴、職場や地域での対人関係やおかれている社会的状況などによって、「偏見（差別意識）」は誰もがもってしまう意識です。だからといって、「偏見（差別意識）」を持つことがダメなのではありません。問題なのは、その「意識」に気づくかどうかなのです。これを、「人権感覚」といいます。「人権感覚」が欠如していると、「偏見（差別意識）」は差別的な言動へと進んでしまいます。ただし、ここで注意しておかなければならないこととして、差別や偏見は、個人の意識や態度の問題だけでなく社会的な意識が影響していることも忘れてはならない。

➤ 3年間の人権・同和教育を終えて

10月21日に3年生が人権・同和教育LHRを行いました。3年生は、社会に出る直前です。世の中に存在しているさまざまな人権課題を認識し、今後社会人としてそのような問題に直面したときに正しい判断ができる人間になるという自覚を養うことを目的として、実施しました。一人ひとりが坂出高校で学んだ人権学習を忘れず、社会に出ても決して差別を許さない、正しいことを見極めて行動できる人間になってほしいと心から望んでいます。詳しくは、12月号にて報告します。以下に、生徒の素直な感想を紹介します。

私は、幼いころから被差別部落の人は悪い人だと言われ、何も知らないのに差別心を持っていました。学校で授業を通して考えることがなければずっと差別していたと思うし、将来、自分に子どもができたとき、間違った知識を教えていたように思います。私のような人は少なくないのでは。学校でHR運営委員になって差別についてよく考えるようになりました。私の家でもよく差別について話し合うことが増えました。たまに、ケンカしてしまうことがありますが、根気強く、家庭の中からも差別をなくしたいなと思います。学習会で責任のない人が、責任があるかのように扱われることが差別だという言葉を知りました。本当にそうだと思います。私の心にとっても強く残っています。みんな一人ひとり幸せであるべきです。また、今、世の中にはいろんな差別があることが分かりました。私もまったく差別をしていないわけではありません。無意識のうちに誰かを傷つけているかもしれません。常に相手の立場にたって考えられる人になりたい。でもそこに同情はいりません。対等な目線でたくさんの人と仲良くしていきたい。